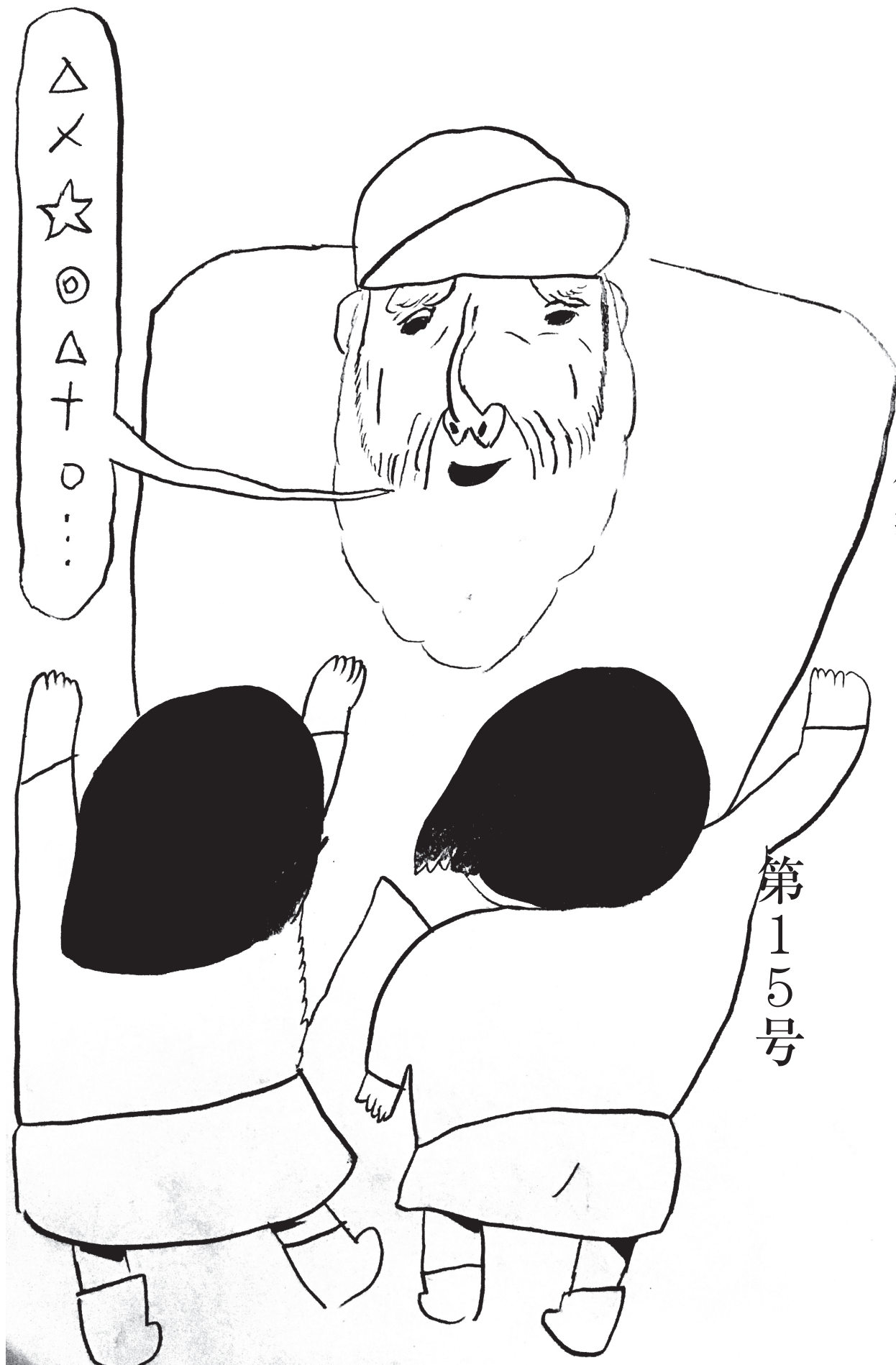


小報もがみ

第15号



人類みな兄弟

移住に一層注目が集まる昨今、最上町にはいわゆる「移住者」と呼ばれる方が少ない。移住にも様々な形があると思うが、兵庫県神戸市から移住し農業を営む桂木夫妻は最上町では珍しいケースだ。コロナ禍で東京一極集中の不自然さが浮き彫りになってきたが、遡ること11年前に移住という選択をし、そして全国的には知名度の低い最上町という場所になぜ辿り着いたのか。対外的なこと担当という桂木千秋さんにお話を聞いた。

○気がついたら最上町に
結婚した後、頃合いを見計らったように「農業したい」とって旦那からカミングアウトされました。それまでは農業と全く関係のない仕事をしてたので「ええー！」って感じで。戸惑いはしたものの私も覚悟を決めました。

農業が出来る土地を探すために、移住イベントに行つて色々な市町村の話の聞いたりしてただけど、いま一つ惹かれるものがなくて。そんな時、SNSで繋がりのあった最上町の奥山秀一くんに冗談半分で「移住先を探してるんだよね」って相談したら「世話してやるうか」って言われて。とりあえず何もないところっていいのは聞いていたんだけど、住むにあたって「周りの人間と上手くやっていけるかどうかだよ」って。秀一くんたちが板橋区の区民まつりに出店することになって「一回会いに来てみるんだわ」。本気だったら板橋くらいまで出てこれるだろ」ってことで神戸から出てきて、それが初対面。お酒の席でしたが豪快で愉快な人達というイメージ。こういう人たちの中でならやっていけるんじゃないかって思いました。

実際どんなところか見てみるために雪の山形に遊びに来て、あれよあれよと手続きとか段取りしてくれて、気がついたら最上町に引越していました。極寒の2010年2月末のことでしたから、なんだかんだで11年になります。

○ゼロからのスタート
ほぼ貯金もない状態でこちらに来たので、農業資材やトラクター、土地からなにから給付金だよりで。独り立ちという段階で、やっと材料が揃って、そこからスタートって感じでした。まだまだ苦労は絶えないですね。

それに、移住当初は方言が分からなくて、一時は引きこもりになりそうでした。言葉が分からないからずっと気を張つて。「こんなんではばったんか」って言われたくないから限界を超えて動いていました。そんな時、親身に見てくれている方から「ずいぶんあらいなあ」って言われて。「そんなに乱暴にやっつていってるつもりはないんだけど」って勘違いして自己嫌悪に陥ったり。「あらいい雑」って言われてるのかもしれないって思っていたから「そんなに頑張るな」って言われても、気が抜けなかった。でも同郷の方にその話をしたら「あらいい」はこっちの言葉で「すごい」とか「力持ち」の意味だから気にすんなって。移住者は何が分からないのかも分からないから難しいですよ。気軽に相談できるネットワークがあればいいと思います。

○試行錯誤の中で見えてきた未来

メインで栽培しているのはニラです。開業資金が一番かからなかったから。楽じゃない作物でもあるんだけど、初めてやった作物だから愛着があります。その他は自家消費的に色々、私の趣味で西洋野菜を育てています。当初農業に興味はなかったけど、凝り性でハマればどこまでも行くタイプなので。農業は正解がないからいい。去年上手く行ったことが今年は大変だったり、逆のことがあったり。

最近では少し方向性が見えてきました。暮らした方のコツが分かかってきたっていうのもあるし、下の子も今年小学校に上がるので、自分も農業研修に出かけやすくなる。目を外に向けてみたら意外と同じ環境で頑張っている女性も多いなって。その女性農業者と繋がっているいろいろなイベントに誘ってもらったり。気持ちにも余裕が出来て、少し明るい未来が見えてきたかな。

○よそでは味わえない人間味のある町
私達、完全によそ者でしょ？ 親戚もないから。そんな人間に最初の土地を貸してくれた人たちは、よく貸してくれたなって。本当に感謝しかない。最上町、人はいいですよね。入り込むまで大変だけど、懐に入っちゃえばすごく大事にしてもらえる。

子育てするのにも、すごくいい環境。いくら騒いだって周りには「かまねかまね」って言ってくれるし。夜泣きで苦情言われることもない。散歩でひよいて出かけたら川だの山だのがある。親戚みたいに良くしてくれるから、近所に放牧状態。気がついたらいなくなつて、ふらつと帰ってきて「どこに行つたの？」って聞くと「隣のじいちゃんちでお菓子もらつてお茶飲みしてた」って（笑）。お買い物練習でお金渡して子どもたちだけで柴崎商店に行かせたりしています。

最近では子どもたちに「あんなの区画ここね」って畑作つて花とか野菜とか植えさせてる。手軽に土に触れさせられるのも最上町のいいところかな。畑に手入れに行くと近くのおじいちゃんが出てきて子どもたちと話してくれる。最上町、人類みな兄弟です。よそでは味わえない人間の温かさがありますね。

何にも考えないでヘラヘラつてこ来たような気もするけど、ずっと住んでいくと思います。大変だけど好きなことさせてもらっているから、それはそれで幸せな人生なのかな。

2021年2月24日発行

編集：最上町地域おこし協力隊 山崎香菜子

情報提供：山崎とお話したい方はご連絡ください

電話0233-43-2261（最上町役場まちづくり推進室）

メール hayakawantiyage@gmail.com